

第 88 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：平成 31 年 3 月 27 日（水） 14：00～16：00

場所：奈良県文化会館 2F 集会室 AB

出席者：

【委員】 伊東委員、岡崎委員、川池委員、久保田委員、倉橋委員、河本委員、
庄田委員、立川委員（委員長）、館野委員、藤次委員、堀野委員

【事務局】 奈良県県土マネジメント部 河川政策官ほか

議事 1. 第 87 回奈良県河川整備委員会の議事概要

議事 2. 委員からの意見への対応について

議事 3. 進捗点検のとりまとめ（大和川水系平城圏域）

質疑応答：

1. 第 87 回奈良県河川整備委員会の議事概要

意見無し

2. 委員からの意見への対応について

【治水】

●秋篠川

久保田委員	護岸上部の植樹については、歴史遺産と調和した景観となるよう配慮が必要である。
事務局	奈良県では美しい景観づくりを目指して、奈良県植栽計画を策定しており、西ノ京のエリアでは、桜の植樹によって水辺の魅力向上を図るという整備方針が定められている。水辺の魅力向上を目指して、植栽の種類についても検討していきたい。

●蟹川

館野委員	委員からの意見等で、「お金が掛からない対策を実施してはどうか」とあるが、これは事務局からの発言である。委員からは、「対策を何かしてほしい」という発言があったので修正が必要である。
館野委員	「蟹川上流の東西の道路は、平城京の九条大路の羅城門にあたり」とあるが、「蟹川上流の東西の道路は平城京の九条大路であり、そこには羅城門があった」という表現の方がよい。
事務局	委員からの指摘を踏まえて文章を修正する。

●蟹川（つづき）

立川委員長	5年後に同じような議論をする可能性があることから、資料3-2の進捗点検票に、羅城門跡の案内板について、どこにどのようなものがあるか示してほしい。
事務局	記載方法を検討し、資料3-2の進捗点検票に羅城門跡の案内板について記載する。
川池委員	余裕高（0.6m）を考慮する場合とあるが、余裕高分を考慮しない場合という意味ではないか。計画高水位に余裕高を上乗せした断面を考えた場合に、余裕高を考慮すると表現する。 資料では、堤防高より余裕高分を差し引いた場合の流下能力が示されている。余裕高を考慮する場合という表現は誤解を招きやすいと考えられる。
事務局	委員からの指摘を踏まえて文章を修正する。

【防災】

河本委員	学校の先生方は、市町村が作成するハザードマップの見方は知っていても、県が作成する浸水想定区域図の見方は知らないことが多い。県の教育委員会と連携して、例えば先生向けの研修の場を設けるなど、地図の見方を講義することも必要ではないか。
事務局	防災教育を充実させるために、もっと県から市町村に対しての支援をしていくべきという意見も頂いている。今後県から小学校に対して、こういう授業をされたらどうかというようなアプローチを積極的に実施していきたいと考えている。
河本委員	県の防災教育がかなり避難訓練に偏っている。学校の中での安全だけでなく、通学路や自分が住む地域の危険性、また、奈良県がどのように河川整備に取り組んでいるかなどを知ってもらえるようになると良いと考えている。
事務局	出前トークで、そのような内容を盛り込んでいるものの、出前トーク自体が認知されていない。学校関係者に、防災教育のメニューがあることを周知していきたい。
河本委員	新しい学習指導要領がでて、小学校では防災学習の時間数が大幅に増加しており、中学校では、地域のあり方という新しい内容が加わるなど、防災教育が取り入れやすい状況になっている。また、高校では、地理総合が必修となり、地理総合の中では、一つの大きな柱が防災となっている。 県教育委員会の先生方と一緒に防災教育について取り組む良いタイミングである。

【防災】（つづき）

事務局	奈良県としても学校と連携した防災教育に取り組んでいきたいと考えている。
-----	-------------------------------------

3. 進捗点検のとりまとめ（大和川水系平城圏域）

【治水・住民連携・防災・環境（生物除く）】

堀野委員	西ノ京工区で歴史遺産との調和を図るため、空石積と自然石固着金網を組み合わせた護岸を採用するとあるが、使用する護岸の種類や植生の繁茂状況により粗度係数が変わってくるが、目標流量を流すことができる断面形状となっているか。 環境には優しくなったが、目標流量を流すことができなければ問題である。
事務局	今後注意して整備を進めていきたいと考えている。
堀野委員	P19 の対応方針に羅城門跡の案内板が既に橋梁に設置されていると記載されているが、対応方針になっていない。
事務局	文章の修正を行う。
川池委員	P9 の流量配分図を見ると、上流から 35m ³ /s 流れてきて遊水地で 17m ³ /s カットされているはずが、その下流でもまた 35m ³ /s 流れているという図になっている。遊水地による洪水軽減カットの効果が見えない。
堀野委員	遊水地の効果が見えるようにすることが必要である。
事務局	基本高水流量を併記する等、遊水地の効果が見えるように修正する。
立川委員長	P37 の進捗点検時の意見に、学校と連携した防災教育の取り組みが必要であると記載していただければと考えられる。

【環境（生物）】

堀野委員	改修直後の 1, 2, 3 年はすごく変化のインパクトが大きい。環境モニタリング結果を比較する上で、いつ改修が終わったかなどの時間的な情報が重要である。例えば、「改修済（～H25）」では 1 年前なのか 2 年前なのかどのくらい前に改修されているのか分からないと、調査した時期である H25 の意味が見えてこない。「改修済（～H25）」、「改修済（H25～30）」という表現は変更した方がよい。
事務局	改修時期を確認し、資料を修正する。また、来年度以降も環境モニタリングを実施していくことから、今後、表現方法を検討していきたい。
岡崎委員	環境モニタリング結果を評価する上で、除草等の管理状況を追記してほしい。管理状況を踏まえて環境モニタリング結果を評価することで、他地区でも同様な管理をした方がよい、または、改修後管理しすぎて環境が回復しないのではないかなど、環境を評価する上での基礎情報となる。

【環境（生物）】 （つづき）

藤次委員	資料 4-1 の 12 ページの円グラフについては、桃色が外来種で、緑色が在来種で、黄色がその他であるという凡例を追加した方が良い。
事務局	凡例を追加する。
久保田委員	対照区を設けること、また、どういう場所を対照区として選ぶかということが大事だと思う。また、環境指標生物に着目し、それらの生物がどのように変化しているかを記録していく方法もよいと考えられる。
岡崎委員	対照区においてデータを蓄積していくことで、工事の影響で変化したものか、地球温暖化に伴う流水の水温そのものの上昇等により、潜在的な動物層が変化したのか、長い時間幅で評価すると見えてくると考えられる。一過性で終わらず継続して環境モニタリングを続けていただきたい。

以上